

アフリカにおける JICA の産業開発アプローチ

国際協力機構（JICA）は、6月2日17時30分より、横浜グランド・インターコンチネンタルホテルにて、「アフリカにおける産業開発アプローチ」をテーマにセミナーを開催しました。アフリカからはエチオピア共和国のメコンネン・マンヤゾワル産業大臣、南部アフリカ開発共同体（SADC）インフラサービス局からレミジオウス・マクンベ局長が登壇しました。JICAからは、アフリカ部大竹智治次長が登壇し、アフリカの産業開発支援の三本柱である産業政策対話、インフラ開発、人材育成について発表を行いました。



エチオピア共和国の
メコンネン・マンヤゾワル産業大臣

このセミナーでは、同日午後に先立って開催された産業政策及び若年雇用に関する学術調査や政策提言に関するサイドイベントでの議論を受け、アフリカにおける産業開発を通じた産業構造の多様化や雇用創出に資する JICA のアプローチについて、具体的なプロジェクトを例示しつつ、その目的や特徴などについて議論しました。

JICA アフリカ部大竹次長から、エチオピアにおける日本の「カイゼン」の経験に基づく産業政策対話、南部アフリカにおける広域インフラ整備、One Stop Border Post（注）、今回の TICADV にて表明された産業人材育成構想を説明しました。これを受けてマンヤゾワル産業大臣からは、政策立案における政府のオーナーシップが重要であること、また、JICA に対して、各国の現状やニーズにあわせて柔軟に支援を提供してほしいとの要望、さらに、カイゼンについては 30 社のパイロットプロジェクト等について説明がありました。またマクンベ局長からは、JICA の三本柱の支援はアフリカの産業開発を支援する上でいずれも重要であり SADC の政策とも合致しており、さらに One Stop Border Post 等の取り組みは COMESA-ECA-SADC-Tripartite の推進に大きく寄与するとの期待が表明されました。

アフリカの工業セクターは、1980 年代以降 GDP に占める割合が低下していますが、アフリカ経済がエネルギー・資源開発偏重から脱し、雇用創出を通じた持続的でインクルーシブな成長に転換するため、産業開発の重要性が改めて注目されています。また、日本企業を含む外国企業による投資と技術移転を呼び込むためには、インフラと人材という経済の基盤整備が必要です。TICADV にて、日本政府はアフリカにおけるインフラ開発と産業人材育成への支援方針を発表しました。JICA は、このような方針の下、アフリカの経済構造転換の具体化を支援していきます。

（注）陸路における国境通過手続きを 1 回で効率的に実施するための制度

【第5回アフリカ開発会議サイドイベント】

■本イベントの登壇者

- ・エチオピア共和国 メコンネン・マンヤゾワル産業大臣
- ・南部アフリカ開発共同体（SADC）レミジオウス・マクンベ インフラサービス局長
- ・大竹智治 JICA アフリカ部次長